

高松支部 活動報告

1 研究主題

「生き抜く力を育むための
メディア教育のあり方」

2 はじめに

スマートフォンの普及が中学生にも及び、使用の時間や料金のみならず、人間関係でのトラブルや学力低下などの諸問題を引き起こしている。一方、情報の伝達が速く、連絡網などに利用するという便利な面もある。教育現場においても、タブレットを用いた実践的な取り組みが先進校で行われ、教育効果を上げている。これらを踏まえ、高松地区のメディア教育部会では、まず我々教員が先進的な取り組みや機器について研修し、教育活動に生かせるようにしようと考えた。

3 研究計画

(1) 第1回主任研修会

(4月24日 高松第一中学校)

- ① 昨年度の報告と今年度の計画
事業報告及び会計報告
役員選出及び事業計画
- ② 研究主題について
- ③ 研究組織について
- ④ 研究計画について

<平成26年度役員等>

部会長	川上 伸吾	高松第一中 校長
副部会長	佐々木啓祐	香東中 校長
主任	山本 啓二	一宮中
副主任	深澤 裕幾	塩江中
庶務	山下 敏也	高松第一中

(2) 第2回主任研修会

(6月24日 高松第一中学校)

- ① 放送教育四国大会の発表原稿(内容)の検討(1回目)
- ② 夏季研修会について
- ③ 情報交換
・スマートフォン使用の実態等について
・タブレットの授業利用について

(3) 高松支部夏季研修会

(7月29日 高松第一中学校)

- ① KDDI 「ケータイ教室 安心・安全講座」
- ② 放送教育四国大会の発表原稿(内容)の検討(2回目)
- ③ 情報交換
・タブレットの授業利用について

(4) 放送教育四国大会 愛媛・徳島合同大会

(8月12日 松山市民会館)

- ・発表者 山田中学校 長野進也先生
- ・発表協力者 3名

(5) 第3回主任研修会

(10月2日 高松第一中学校)

- ① 放送教育四国大会 愛媛・徳島合同大会の報告
- ② NHK放送コンテストについて
・審査の様子と優秀作品の紹介
- ③ 情報交換
・香川県警による非行防止教室について
(主にスマートフォンの利用と犯罪に関すること)
・高速カラーオフィス印刷機について

(6) 第4回主任研修会

(11月26日 高松第一中学校)

- ① 高速カラーオフィス印刷機の企業による実演
- ② 次年度の研究について
- ③ Te-Compassについての情報交換

(7) 第5回主任研修会

(2月23日 高松第一中学校)

- ① 26年度のまとめと反省
・高松支部活動報告書より
- ② 27年度の研究計画や研究組織について
- ③ 情報交換

4 研究内容

【タブレットの利用】

(1) 授業実践例

- ・NHK for schoolを利用する場合



〈NHK for schoolのトップページ〉

NHK for schoolのデジタル教材サイトに動画がある。10minボックスなどNHKで放送されているものをいつでも見ることができる。時間が長すぎると思われる方には、「クリップ」という項目に1分～3分程度の動画も用意されている。



〈10minボックスのページ〉



〈クリップ画像のページ〉

- ・ライブカメラを利用する場合



〈桜島のライブカメラ〉

これは、社会科での実践事例である。動画クリップを取り込んで授業の導入などに役立てている。桜島の学習では、刻々と変化する状況をライブカメラにより、リアルタイムに見ることが可能となった。実際に行ったことのない場所も、動画を通して、その場所で学んでいるかのように体験的に学習できることがタブレットを使う良さだと考える。動画を視聴することでその地方についての話し合い活動の活性化が図れ、学習効果を高めることができる。

桜島のライブカメラは、検索すればすぐに出てくる。また、世界各地のライブカメラにもアクセスすることが可能で、少し時間はかかるが、現在の様子を知るには、有効な手立てである。



〈タブレットとテレビをHDMIケーブルでつなぐ〉



〈テレビとタブレットの画面〉

タブレット使用時は、画面のサイズが普段使っている時より小さくなり、NHKの動画をフルスクリーン設定にしても、見にくい場面があった。

(2) 利点と改善点

- ①利点としては以下のことが上げられる。
- ・軽くて小さいので、ノートパソコンより持ち運びがしやすい。
 - ・写真や動画の撮影機能等に限らず、多機能である。
 - ・デジタル教科書がインストールされているため、写真等の利用に便利である。
- ②改善したい点としては以下のことがある。
- ・周辺機器等、持ち運ぶ物が多いのが不便である。(タブレット、HDMIケーブル、タブレットを置く台、台のコンセント、延長コード等。無線LANが各教室に設置されていないため、無線LANのケーブルとブリッジも持ち運んでいる)
 - ・一人で操作するために、予め操作したい画面をピン留め(お気に入り)しておかなければならない。
 - ・フィルター設定が職員室のPCの設定より厳しいため、利用できるサイトがさらに限られている。
 - ・接続に多少の時間がかかる。
 - ・タブレットの操作に慣れておく必要がある。



〈講師によるタブレット研修〉



〈実機を用いた実技研修〉

(3) 今後の課題

- ・タブレットが使いやすいように学校の環境を整備すること。また、周辺機器の管理を徹底すること。
- ・タブレットを有効に活用するための情報を共有しあう体制づくりを進めること。学校内だけでなく、教科や教科外研修会などを通して他校とも共有していくことが必要である。
- ・多くの学校ではまだタブレットを使っていないため、授業での有効活用はもちろん、保守や保管についてのノウハウも蓄積がない。今後のタブレット導入にあわせて先進的に実践・研究を進めている教員や学校が中心となって、研修を広め、スムーズな活用に結びつけたい。

【発表原稿の検討】

第48回放送教育研究会四国大会愛媛・徳島合同大会での発表原稿の検討と発表リハーサルを行った。

「豊かな心を育むためのメディア活用の目的を明確にした授業づくり」を主題とし、映像メディアの実践事例として、①美術科での利用、②音楽科での利用、③総合的な学習や道徳の時間での利用を取り上げ、具体的な実践の様子と学習効果について発表原稿やプレゼンテーションを仕上げた。美術科や音楽科の授業では、作品制作の意識付けや心情を高めることに有効で、知識理解を進めるにも効果的であったことがあげられた。道徳や総合的な学習の時間では、共生フィールド学習や職場体験学習の事前学習などで、生徒の意欲や取り組み方、考え方にどんな変化があったのかという検討を行った。あわせて著作権等の問題についても検討を行った。



〈大会分科会における発表の様子〉

【スマートフォンに関する研修】

「ケータイ教室 安心・安全講座」
講師：KDDI環境推進室 大久保輝夫 様

夏季研修会で教員向けの携帯安全教室を行った。講師の大久保さんは、全国で年間300回以上の講演を依頼されている人気講師である。今回は教員向けの内容で、出前授業形式の研修を行った。概要は以下のようであった。

昨今の問題の多さの原因は2つある。1つはスマートフォンの急激な普及、もう1つはLINE（ライン）の利用率の高さである。

1990年以降生まれのデジタルネイティブ世代は、危険に対して無防備である。児童・生徒に対して簡単にインターネットに接続できる機器を持たせるということは、単に連絡できるおもちゃを与えるという領域を超えている。保護者、生徒ともに、危険な人、危険な情報ともつながってしまうことを認識できていない。自己責任の認識さえも無い事例も見受けられる。

対策としては、保護者の管理下に置く。子どもが嫌がっても必ずフィルタリングをすることが必須である。また、危機感のなさは想像力の欠如と考えることができ、少し先のことを自分で予想することができない。結果、受け先を考えず、不用意に自らの個人情報を送信し、危険の中に飛び込むのである。

特にLINEについて詳しい説明があった。

◇LINE設定上のポイントについて

- ①アドレス帳関係 → 「利用しない」
- ②カカオトーク → 「選択肢なし」
- ③友だち自動追加 → 「オフ」
- ④友達への自動追加 → 「オフ」

初期設定は全て「オン」の状態になっているので、必ず設定変更をすること。利用する際には、便利さや楽しさの裏には危険が潜むということを考える習慣を養うことが肝要である。

トラブルの最大原因は、LINEの使いすぎによるところが大きい。不必要な利用・無目的な書き込みからトラブルに発展することが多数ある。

事例① 「グループトーク」

3～4のグループで情報を交換する。メッセージ数が1000を超える事は当たり前で、時間的なロスはいつまで経っても終わらない。抜けたくても抜けられず、エンドレスに続くと考えてよいほどである。

事例② 「デジタルタトゥー」

いじっているうちに、魔が差しやすくなる。臨場感があり、指先ひとつで簡単に実行できる。判断力・想像力が鈍化し、現実社会ではやらないこともついやってしまうことに発展してしまう。常識という考えが浮かばず、常軌を逸した行動に発展してしまう。

【高速カラーオフィス印刷機に関する研修】

理想科学工業株式会社より講師の方をお招きして、実機を用いたデモと併せて、プリントネットワークの研修を行った。

研修ではまずORPHIS-Xの使用法とそのコストについて説明を受けた。実際に印刷を行うと、カラーコピーの速さに驚き、設定が視覚的で簡単になっており、印刷コストの安さからも大変便利な事務機器として、事務作業の効率化が図られると感じた。様々な機能が紹介される中、ちょっと便利な使い方についても教えていただけ、興味をそそられる内容であった。

情報をカラーで発信するという事は、テレビやスマートフォン、タブレットでは当たり前であるが、それが印刷の場面でも簡単に、速く、安く（印刷コストだけで見ると安い）できるということがわかった。

県内でもすでに導入されている学校があり、高松市でも導入を図ってもらいたいと感じた。

5 今後の課題

本年度も今までと同じように定例の主任研修会を5回と夏季研修会を開催した。また、県の夏季研修会にも多くの先生方が参加し、研修を受けた。放送教育四国大会の発表についても、継続研究してきた内容を発表でき、それぞれがスキルアップできた充実した1年であったと思う。来年度は各中学校での様々な取り組みを継続して行うとともに、共通の課題で授業を行ってみてはどうかと考えている。また、県警の方からの指導講話や情報機器の情報交換等、有意義な研修を積み重ねていきたい。